

第4回岩倉市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生
総合戦略検討委員会 議事録

日時：平成27年11月26日（木）午前9時30分～11時30分

場所：岩倉市役所7階第1委員会室

出席者

委員：千頭委員、井上委員、村田委員、加藤委員、宮川委員、田中委員
日比野委員 櫻井委員

事務局：副市長、総務部長、秘書企画課長、秘書企画課加藤、小出
加藤（地域問題研究所）

欠席者：水越委員、廣田委員、廣中委員

傍聴者：2名

1 開会

事務局

第4回岩倉市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会を開催させていただきます。

2 委員長あいさつ

本日も戦略の中身について議論をしていただき、ご提案をお願いします。パブリックコメントにはいろいろな形があるとは思いますが、今回は議論の到達状況を示す形で一旦、骨子案としてパブリックコメントを実施し、市民の皆さんからのご意見をいただくといった形が良いのではないかと事務局と相談させていただきました。本日の委員会では中身の議論とパブリックコメントをこの形で出してもよいかといったことをご諮りさせていただきたいと思います。

3 議題

- (1) 岩倉市人口ビジョン（案）について
- (2) 岩倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について
- (3) パブリックコメントの概要について

【資料1、2、3について事務局よりまとめて説明】

委員長

パブリックコメントに戦略案としてどのレベルで出すかということになりますが、議論の途中段階ではありますが、骨子案として本日の資料のような形で出していただけたらと思います。パブリックコメントをこの形で出すことでよろしいでしょうか。（異議なし）

委員

（資料2：2ページ）基本目標1は商工会が大きく係わる部分ですが、施策の中に中小企業、小規模事業者の支援を入れていただいたことは心強く感じています。今後は具体的にどのように進めていくかということになりますが、市との連携の中でやっていきたいと思います。

全般の目標指標について、目標値は平成31年度となっていますが、内容によっては毎年どれくらいといったものもあると思います。（資料2：3ページ）例えば、KPIの「個別経営相談会への参加事業者数」が平成31年度、〇〇事業者となっていますが、毎年何事業所で、31年度は何事業所かということもできるかと思います。目標値の設定方法に不明な点があると感じます。

事務局

目標値の設定について、4年間でといった表記のないものについては平成31年度にどうなのかといった表記で整理させていただいています。中には今年度、新たに事業を始めているものもあり、基準値、目標値の設定は煮詰まっていないのが現状です。

（資料2：2ページ）「数値目標」の基準値の中には国の統計調査によるものもあり、市が独自で把握できないものも含まれています。わかるものについては累計で表記できますが、そうでないものについては、31年度時点の単年度表記となります。

（資料2：6ページ）中には「満足している市民の割合」といったものもありますが、これは5年ごとに実施している市民意向調査の数値を採用していることから、毎年出せるものではありません。目標値については、わかりやすくお示しできるよう引き続き内部で調整させていただき、工夫をしたいと考えます。

委員

計画は5年間であるが、毎年の積み重ねから結果、31年度はどうかとすべきではないでしょうか。市独自で把握できない数値では意味がないと思います。PDCAサイクルの考え方からすれば、毎年の結果について反省しながらステップアップしていくという姿勢が重要だと思います。

委員長

短期間で見える指標と中期的に見る指標ということになりますが、市独自で把握できる指標があるかどうかですね。

（資料2：2ページ）数値目標のうち、市内の製造業事業所における従業員数と製造品出荷額等は何の統計のものですか。

事務局

工業統計です。

工業統計は毎年実施していますが、年間商品販売額は商業統計の数値となり、商業統計は、3年ないし、5年ごとの実施になりますので、毎年の把握が難しいものとなります。

委員長

補足指標があるのかどうかについては、検討事項ということではよろしいでしょうか。

指標値の考え方として、どのような指標なのかわかりやすく書くことにしましょうか。

委員

(資料2：2～5ページ) 経営支援について、ものづくりといった面から岩倉市の特徴を捉えた分野への支援が必要ではないでしょうか。支援対象の分け方として、分野別、企業の年数などが挙げられますが、特化した分野に支援することが戦略的に重要と考えます。

支援を行う上で重要となるのが、支援する側の人材が挙げられますが、経営経験者として地域の既存事業所の経営者を活用するということが有効だと考えます。

委員

計画は多岐に渡っていることから担当部署も複数となります。市としては専門部署をつくっていただき、窓口を一本化し、人材等も確保していただくのがよいのではないかと思います。

委員

分野の明確化について、統計調査等で傾向を掴むことはできますが、どの業種といった絞り込みは厳しいと考えます。

岩倉の小売業、サービス業に占める割合は多いことから、創業支援を行う上でサービス業、小売業といった切り口で考えるほうがよいのではないかと思います。

委員

岩倉で伸びそうな分野への資源投入が必要だと考えます。

委員

(資料2：3ページ) 伸びそうな分野を基準値にしないと目標は厳しいと思います。例えば、「小規模企業等振興資金融資件数」で基準値は28件となっていますが、全てを包含しての28件だと思います。小規模事業所は減っていく傾向にある中で、融資件数を維持したということでも成果になるとは思いますが、伸びそうな部分に絞って、そこを基準値にすることで目標値を底上げできるのではないのでしょうか。また、小規模事業者の会議で出た方向性もここに反映させる必要があると思います。

委員

岩倉には、地域資源を活用した優秀な企業もあるので、そちらは経営支援で対応できますが、喫緊の課題としては減っている企業をいかに食い止め、新しい企業をいかに興すかということだと思います。

事務局

(資料2：3ページ) 具体的な施策・事業名に6つの事業を挙げさせていただいていますが、5つの事業が新規となっていますように、これからというものばかりですので、現段階では分野を絞るというところまでには至っていません。

委員長

(事務局に対し) 減っている事業所を食い止めることは必要であり、伸ばしたい分野を明確にするのも重要ですので、各担当課ともう一度議論していただくほうがよいかもしれません。

委員

伸びそうな分野を特定するといったことを書けばよいのではないのでしょうか。

副市長

この地域には航空宇宙産業がありますので、そういったことも書けたらとは思いますが、思惑どおりの展開になるかは未知数です。分野を絞り込むのは難しいかとは思いますが、この部分の表記については商工担当とも話をさせていただきます。

委員

下がっているものを持ち上げるのはかなりの努力が必要ですが、今、伸びているところを伸ばすほうがよい成果が出ると思います。

分野を絞り込むことは重要と考えます。何か特定の分野に絞り込まなければ、先に進めないのではないのでしょうか。

加藤（地問研）

補足ですが、支援する側の人材育成の件で、独立開業を企図する設備、機械を持たない事業者に対し、設備と場所を貸し出すといったことや喫茶店の開業のための場所を提供しているなどの事業所があると聞いています。

研修を行って育成するのではなく、どこかに出して育成できるような関係性、環境も必要ではないのでしょうか。

委員

(資料2：6～7ページ) 新規の事業を見ても漠然としています。例えば、「③空き家等利活用推進事業」、「④子育て応援住宅認定制度の創設」、「⑤子育て応援賃貸住宅支援制度」、「⑥三世代同居・近居支援」などは、どこから手をつけ、どういった順番で進めていくといった具体性に欠けており、漠然としていると思います。

市がどのように進めていくのかといった方向性が見えるとよいのではないのでしょうか。

委員長

今挙げられた事業の中で、最も推すべき施策は何でしょうか。

委員

(資料2：7ページ) 「③空き家等利活用推進事業」だと思います。現状として、岩倉団地や岩倉駅周辺のマンションなどにも多くの空き家があることから、早急に空き家の利活用を考えるべきで、空き家を利用して人を呼び込んでいただきたいと思います。

委員

全般として、市民、行政それぞれの立場で、あるいは協働でといった内容が網羅されているべきであると思います。

委員

(資料2：7～8ページ) 観光について、一時のブームで終わるような一過性のものではなく、持続的な内容の案が出てくるとよいと思います。また、プロモーションについても具体的な案が出ればよいと思います。

委員長

(資料2：7ページ) プロモーションでは、「具体的な施策・事業」の①にありますように是非ともよいプロモーションをしていただきたいと思います。

委員

地方創生が叫ばれる中、他を模倣することなく岩倉らしさが出せる案があるとよいと思います。

若い世代における新聞の購読率が少ないことから、スマホに関するプロモーションがもっと出てくるとよいと思います。

委員

(資料2：7ページ)「⑤子育て応援賃貸住宅支援制度」について、市街化区域の土地では固定資産税が高いこと、アパートではあまり利益が出ないなどの理由からアパート経営はしたくないという声を聞くことがあります。

「⑥三世同居・近居支援」について、アンケート結果にあったように同居というよりは近隣に住んでくれさえすればよいという考えが多いと思いますので、この部分にあまり力を入れすぎると他の事業に力が回らなくなると感じます。

委員長

近居が現実的ということですね。

副市長

岩倉団地で問題となっているのはエレベーターがないことです。

どこかの団地では業者とコラボして改修を行い、若者を呼ぶということをやっているところもあります。岩倉団地については基本的な対応が必要だと思います。

三世同居については、岩倉は20歳代の転入は多いが、子どもができたことによる住宅購入等の理由から30歳代の転出が多い特徴があります。他市では子どもがいる世帯を考慮した面積の賃貸住宅に何らかの援助をするというところもありますので、そういったことを想定しての施策です。

近居支援については、今後、一人暮らし高齢者も増えることから、見守りなど複合的な要素を考慮したものとなっています。

委員長

近居は、コンパクトな岩倉ですから市内と考えてよいですね。

委員

(資料2：10ページ) 岩倉は子育てについては充実していると思いますので、現状維持でもよいので継続してほしいと思います。

婚活事業に力を入れ、結婚した人が転出していかないようなアイデアが出ればよいと思います。

委員

岩倉が子育てについて充実しているということであれば、その部分は強みなので積極的にアピールすべきではないでしょうか。

委員長

先般、千葉県銚子市と茨城県神栖市の話をしましたが、劇的な結果となっています。

委員

(資料2：11 ページ) 来年開設の保育園送迎ステーションなどは岩倉の立地を活かしたオリジナリティの高いものですので、大々的にPRすべきと考えます。

委員

(資料2：11 ページ) 保育園送迎ステーションのサービスについて説明願います。

副市長

(資料2：11 ページ) 「②保育園送迎ステーション整備・運営事業」は、「施策の基本方針」の1番目とセットになっています。

例えば、中部保育園は空いていないが南部保育園に空きがある場合は岩倉駅を經由して通勤する人はここから送迎するといったことができます。岩倉はこういった方式について、以前から研究していました。

委員長

こういったことはPRすべきですね。

委員

(資料2：10 ページ) 指標の「子育てサークル数」は子育て支援センターで立ち上がるサークル数でしょうか。子育て支援センターはこれを指標とすることについて了解しているのでしょうか。

委員

全体的に子どもの数が減ってくる中で、これを指標とすることはいかがかと思います。気楽に参加できるサークルに主眼を置いているところにサークルの立ち上げだけに力をいれていくとプレッシャーとなって逆効果になるのではないのでしょうか。

事務局

子育て支援センターに直接は確認していませんが、子育て支援課に確認してもらっていますが、調整させていただきます。

委員

団体が増えることが目標ではなく、サークルに参加することの方が重要ではないのでしょうか。

委員長

(事務局に対して) ただいまの件については、子育て支援センターと子育て支援課で調整願います。

委員

(資料2 : 15 ページ) 指標で「防犯面において安心できると考えている市民の割合」のように感覚的なものはその時々で変わると思うので、ある程度明確な指標のほうがよいと思います。

例えば、「④LED防犯灯設置事業」であればLEDの設置数を出すなど、明確な数値を掲げるほうがよいのではないのでしょうか。

委員長

これらの指標は総合計画でも出している指標で、それを総合戦略でも使っているわけですが、総合戦略は毎年進行管理をして5年で終わりだということを考えれば、委員のご指摘のとおり、このような指標を入れると進行管理が難しくなることも否めないと思います。

事務局

総合戦略の指標の設定において、国は、アウトカム指標であるべきとしています。県や他自治体ではアウトプット指標も見受けられます。数値目標とKPI（重要業績評価指標）のバランスの問題もありますが、できる限りアウトカム指標とすること、総合計画との関連性も考慮し、総合計画と同じ指標を出させてもらっています。

毎年の進行管理を考えていく上で、評価しやすい指標をとということですので、今一度、見直しも含め、検討させていただきたいと思います。

委員長

(資料2 : 13 ページ) それぞれの基本目標では、2番目に数値目標が掲げてあり、それぞれの施策ごとにKPIが掲げてあります。数値目標に「犯罪発生件数」がありますが、むしろそれをKPIにもっていき、KPIにある「防犯面において安心できると考えている市民の割合」を数値目標にもってくるほうがよいかもしれません。

数値目標はアウトカムのものを、KPIはアウトプットのもののほうがよいかもしれません。(事務局に対して) 指標については検討をお願いします。

アンケートは何年ごとに行っているのですか。

事務局

5年に1回です。

委員長

毎年何らかのアンケートを行う必要があるかもしれませんね。

委員

全般として、行政が行う部分、商工会あるいは金融機関が行う部分、協働で行う部分を区分けして役割分担していただくとわかりやすいと思います。

企業誘致に関して、岩倉は基幹産業がないので、空港が近いという立地を活かし、航空産業などの先端技術を有する企業を誘致することで変わることができると思います。

委員

基本方針は4つありますが、それぞれに重なる部分が重要で、基本方針3の子育て支援といった場合に基本方針1で企業はどういったことができるか、逆に企業の発展のために子育て支援をどうするかというように、重なる部分に力を入れる施策を打っていくことが大事ではないかと考えます。

(資料2:16ページ)「③企業の地域貢献への支援」にこだわったのは、誰がこの地域を変えていく主体なのかということです。勿論市民ではありますが、その中で企業は経済的に力を持っています。そういった意味で、企業の意識が変わることによってその地域が変わるものと考えます。

委員長

役割分担という意見が出ました。全ての項目に役割分担を明記するのは難しいとは思いますが、大事なことだといえます。

全体の流れとして、今日の議論を踏まえ、資料の修正を加えた上で資料1と資料2をパブリックコメントに掛けるということになります。パブリックコメントで出た意見を踏まえて次回、最終回の委員会ということになります。次回までの間、ご意見があれば出していただきたいと思います。

事務局

今まで、欠席された方の意見聴取が十分だったかということもありますので、ご意見をいただければと思います。

委員長

(事務局に対して) ご意見については、作業のこともありますので、一旦、来週月曜日(11月30日)までに出していただくということでよろしいでしょうか。

(事務局に対して) 次回はまとめをしなければならないので、パブリックコメントで出た意見や応答については次回の委員会前までに送付していただけますでしょうか。

副市長(あいさつ)

資料を直前に配付する等、ご迷惑をお掛けしました。皆様には時間のない中、資料にお目を通し整理していただきありがとうございました。

ご意見を伺い、計画づくりは過程であって実践することが重要であることを改めて認識させていただきました。

PDCAサイクル、役割分担、協働などいろいろなキーワードが出て来ましたが、この辺りも併せて考えていかなくてはいけないと感じました。

これからパブリックコメントの手続きに入っていきますが、以後もお気付きの点があればお聞かせいただきたいと思います。

まずは、よりよい計画をつくりあげたいと思いますので、今後ともご協力をお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

4 その他

【事務局より次回の予定について説明】

以上